

発見！世界初！ カンムリ ブダイの 大産卵！！

Palau, Grassland

パラオのブルーマーリンが、前回の複数のオリジナルポイント開拓に続き、
今度はそのオリジナルポイントを潜り込むことによって、

世界的にも珍しい、否、世界初かもしれない、とんでもないシーンを発見してしまった。
カンムリブダイの大産卵の撮影。

頭上には、推定1000匹を超えるカンムリブダイたちが、今にも臨戦態勢。
やる気満々の彼らの熱気が、ダイバーの僕たちにも伝わってきた。

底知れないパラオの海の実力と、ガイドのリサーチ力の深さを今、実感する。

Photo & Text : Takaji Ochi
Special Thanks : Blue Marine
Design : tomato



01



02

最終調査と、確証をつかむための取材

2010年10月10日、ブルーマーリンの富永直之さんから、久しぶりのメールが届いた。10月の新月前、「グラスランド」でとんでもないシーンに遭遇したから、急遽WEB-LUEの取材で来て欲しいという内容。グラスランドは、前回ブルーマーリンが新たにウーロンエリアで開拓したポイントの中の一つ。サンゴのリーフに囲まれた、砂地の緩やかなスロープが広がる癒し系のポイントだ。ブルーマーリンの開拓したオリジナルポイントの中でも自分自身、そのうち定番で多くのダイビングサービスに利用される可能性が高いと指摘したポイントでもある。

前回取材終了直後も、「グラスランドで500匹ものカンムリブダイの群れに囲まれたんですよ」という報告をもらっていた。あれから1年、彼らはそのカンムリブダイが何故群れるのかを調査し続けて、とんでもないシーンに遭遇したというのだ。

それが、早朝の大産卵。カンムリブダイといえば、リーフで数匹から数十匹が集まっていて、突然数匹が海面付近まで上昇して、煙幕上の精子と卵子を放出して戻ってくるシーンは何度か見たことがあった。なので、彼らの産卵時期や場所というのは、特に決まっているものではないと思っていたし、産卵のために群れたとしても、それほどの規模は作らないと思っていた。個体のサイズが大きいから、天敵もいなくて、イレズミフエダイやバラ

フエダイ、ツノダシみたいに、産卵のために群れる必要性も無いのかもしれないとも思っていた。

それが、「1000匹以上は群れていると思います」というメールに、何を置いても取材に行きたいと思った。丁度産卵のピーク期間、特別な予定は無く（まったく無い訳ではなかったけど）、僕は急遽パラオに向かうことになった。「大産卵がどんなに凄いのかこの目で見てみたい、撮影したい」という好奇心に突き動かされた。



03



04



05



06

01/グラスランドに群れる、ホウセキキョク

02/癒し系の砂地には、ポイント名の由来にもなった、ガーデンイルがうじゃうじゃ

03/グラスランドの周囲はびっしりと、サンゴに覆われている

04/グラスランド近くの無人島、ウーロン島

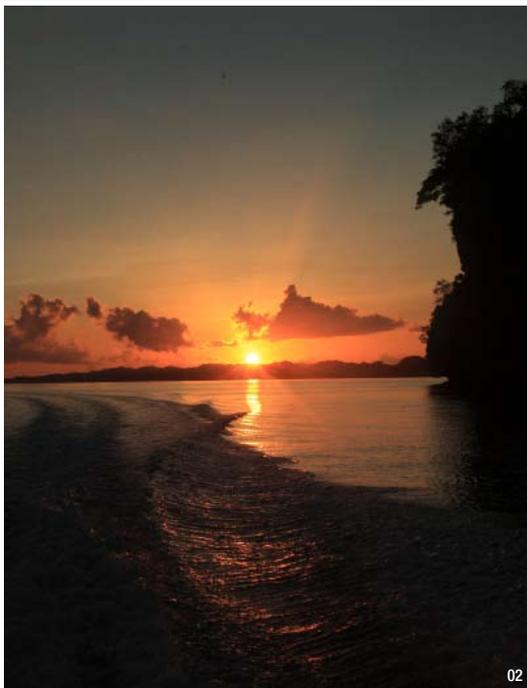
05/パラオでは比較的珍しいマダラエイ

06/グルグマも、砂地で捕食を繰り返していた

発見!世界初! **カンムリブダイの大産卵!!**
Palau, Grassland
 Web-lue 2010. Winter



01



02



03

- 01/海が夕焼けに染まり、周囲が暗くなり始めた
- 02/日の出とともに、グラスランドへ向かう
- 03/捕まえた魚を丸焼きにして食べた
- 04/満点の星空
- 05/すべて丸焼き。美味しかった



04



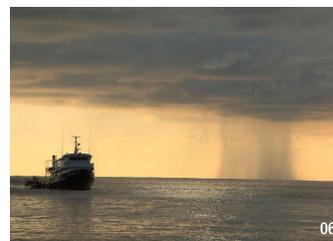
05

ピーク前日オーバーナイト

大産卵ピーク前日、グラスランドに近い無人島のウーロン島でオーバーナイトをすることにした。空が朝焼けに染まり出した頃に、オーバーナイト機材を積み込んだボートで、コロールの港を出港。そのまま、グラスランドに直行して、エントリー。一斉産卵の撮影を行なった。富永さんいわく、「この日は勢いが感じられない」とのこと。群れの撮影には十分だが、産卵の激しさは、リサーチからすると、明日の方が凄いとのことだった。それでも、凄い数ではあったけど。

その日の撮影を終えると、オーバーナイトの準備のために、ウーロン島に上陸した。近くの島にステイしたのは、翌日の早朝、時間に余裕を持って撮影に当るためであった。通常のオペレーションではオーバーナイトは予定していない。テントを張ると、僕らは、捕まえた魚をバーベキューにして、船上で作ったカレーライスとワインと一緒に夕食を済ませた。まだ7時台だというのに、ワインを飲んで、疲れ切った富永さんとスキッパーのフレイヴは、早々に眠ってしまった。

僕は、あまりにも星空が美しかったために、しばらくはビーチに佇んで、色々な事を考えながら、その星空を見上げていた。



06



07

- 06/水平線の一部にだけ、夕立が降っているのが見えた
- 07/無人島にテントを張り、就寝

発見!世界初! **カンムリブダイの大産卵!!**
Palau, Grassland
 Web-lue 2010. Winter



驚愕の 産卵シーン

噴煙を上げるように、数匹のカムリブダイが浮上していき、産卵を繰り返した

発見!世界初! **カムリブダイの大産卵!!**

Palau, Grassland
Web-lue 2010. Winter

驚愕の 産卵シーン

明るくなってから、島を出発して、昨日より少し早くエントリーしてみることにした。しかし、まだそれほど多くのカンムリブダイがいるわけではなかった。

「早過ぎたかな？」そう思って沖を見上げた瞬間、下げ潮で濁った中層から、ワラワラと、無数のカンムリブダイたちが集まってきた。昨日あれだけ、グラスランド周辺のサンゴのリーフを探索したにも関わらず、彼らの姿をほとんど見つけることができなかったのに、一体どこからこんなに集まってくるんだ。

その群れは、前日とは打って変わって、まとまりがなく、どこか興奮しているように見える。動きも早い。「俺はやるぜ!俺はやるぜ!」という気合いが全体にみなぎっているように感じられる。その熱気が僕らにも伝わってきて、何故か興奮してしまう。落ち着かなければ、ピーク時にエア切れしてしまう。僕らは、予備タンクを海中に沈めていて、エアが無くなりそうになったら、装着し直して撮影を続ける計画を立てていた。

昨日のように、まとまった群れを撮影するには、不都合な群れ方だったのと、早くエントリーしてしまったので、少しでもエアを使わないようにしようと思い、早々に深度を上げて、水深10m ~ 5m付近で産卵が開始されるのに供えた。

昨日のような溜めの時間もなく、急に大産卵が始まった。数匹が団子のように固まって浮上したかと思うと、あちこちで精子と卵子の噴煙があがる。ただでさえ、下げ潮で水面付近は濁っているのに、その噴煙のおかげで、さらに透明度が落ちる。僕は必死になって、産卵しそうになって、群れ始めたカンムリブダイたちに接近を試みるが、なかなか近くで撮影することはできないし、多くが白濁した海水の中にロケット噴射のように突っ込んで行くために、まともに撮影ができない。

多いときには、50匹以上が一齐に産卵玉に注目して追いかけようとしている。オスの顔は婚姻色で白くなり、なんかちょっと不気味。産卵したオスや、産卵玉に参加できなかった白顔のオスの群れが、また別のメスを探しに一齐に戻ってくるシーンもちょっと気色悪い。「次もやるぜ!次もやるぜ!」「次はやるぜ!次はやるぜ!」って性欲顔に丸出しだよ。まあ、顔に出ちゃうんだからしょうがないんだけど。

僕と富永さんは、そんな性欲丸出し顔なカンムリブダイたちの精子と卵子にまみれながら、撮影を続けた。途中でエアが尽きて、ボート近くの海中に置いて予備BCを取りに戻ったのだが、下げ潮が激しくて、戻るのにも苦勞した。装着し直すと、また沖に出て撮影を続けた。

この日、大産卵は、7時頃まで続き終了した。後には、大産卵を終えて、普通の顔に戻ったカンムリブダイたちが、悠然と泳いでいた。その数はおよそ500匹。普通に考えれば、この群れを見ただけでも、感動すると思う。

僕らの推定では、大産卵時には、少なくとも1000匹オーダーのカンムリブダイたちが集まってくると考えている。もちろん憶測ではなく、写真に写り込んだ個体数からの推定だ。1枚の写真に写り込んだ個体数で、一番多かったのが約400弱。しかし、それが全体ではなかったし、視界に入ってきていない個体も多数いたに違いない。群れは、どちらかと言うと帯状に長く連なるので、一度に撮影するのは困難。そんなところから判断しても、1000匹は下らないだろうと推測している。

カンムリブダイの産卵に関する文献や論文などをインターネットで調べたが、ほとんどの情報が、多くても100匹くらいの群れの中から、ペアが水面下まで浮上して、精子と卵子を噴出して、また群れに戻るという表記をしていた。どこにも、1000匹以上のカンムリブダイが集まって、大産卵を行なうというような文献は見当たらなかった。そうすると、世界初の報告になる可能性は高いわけだ。

群がったカンムリブダイの数は優に1000匹を越えた

発見!世界初! **カンムリブダイの大産卵!!**
Palau, Grassland
Web-lue 2010. Winter

サンゴ礁魚類の産卵行動と性転換に詳しい、中京大学の桑村哲生教授に大産卵の写真を見てもらった。「これほど大きな群れを作って産卵を行なうのは、論文上では、報告されていないようです。世界的にも、かなり珍しい報告と言っているでしょう。ブダイというよりも、ニザダイなどの産卵行動に似ている。カムリブダイは、他のブダイと違い、性転換をしない可能性が指摘されている論文があるが、大産卵は、その根拠にもなりません」。ハーレムを形成できないため、性転換しても得しないということだ。また、「メスよりも、オスの個体の方が多く見られたのは、通常、メスは1日に1回しか放卵できないが、オスは1日に何回でも放精できるから」とのことだった。



カムリブダイ

学名 *Bolbometopon muricatum*

スズキ目-ブダイ科-カムリブダイ属。インド洋、紅海、中・西部太平洋地域に分布。日中は群れをなして、主に礁縁部を遊泳するが、夜は岩陰で寝込む。岩陰で寝込む魚としては、大型なために、電灯潜水漁で狙われ易く、日本国内では、乱獲が原因で絶滅危惧種に指定されている。生きたサンゴを主食とする。体長は最高で130cm、体重75kgに達する。寿命は40年。通常は神経質で寄れないがシバタンでは、かなり接近できることで知られている。英名は Bumphead Parrotfish。



世界的にも珍しい、カムリブダイの大産卵



「グラスランドでは、カムリブダイの大産卵以外にも、まだまだ面白いことがありそうな予感があります。これからもしサーチを続けて、また面白い事が見つかったら、WEB-LUEで取材してください。でも、はっきりするまでは、越智さんにも秘密です」

富永さんは、映画の続編があることを匂わせるような、意味深い発言をして、また僕の好奇心をかき立ててくれた。早くその日が来る事を首を長くして待っていることにしよう。

01/カムリブダイ

02/1匹のメスに数匹のオスが群がって産卵を行っていた。他のオスたちもその様子を見ていた

03/産卵を終えて、グラスランドに群れるカムリブダイたち。顔はいつもの色に戻っていた

04/数匹が玉になって浮上

05/卵子と精子を噴煙状に噴出

06/また群れの方へと戻っていく



発見!世界初! **カムリブダイの大産卵!!**
Palau, Grassland
 Web-lue 2010. Winter



Information

ブルーマーリン

今回の世界的にも珍しいカンムリブダイの大産卵を発見したのは、前回、多くのオリジナルポイントを開拓してきた、ブルーマーリン。今は北部の開拓に力を注ぐとともに、スノーケルなどによる、北部カヤンゲルエリアへのエコツアーも開催している。リピーターも多く、定番のブルーコーナーやジャーマンチャンネルだけでなく、バリエーション豊富なオリジナルポイントなどオリジナルポイントなどに、案内してくれる。

→ <http://www.meluis.com>

Tシャツ & スーベニアショップ ルー

パラオでも人気のおみやげ屋さん。オリジナルデザインのTシャツや、サンゴや貝で作ったかわいらしいネックレスや、プレスレット、アンクレット、などが人気。PAWS (Palau Animal Welfare Society) のTシャツの売り上げは、パラオの動物たちを助ける活動への資金援助に当てられます。また、店内には、カフェもあって、美味しいコーヒーの他、かき氷なども楽しめる。

読者プレゼント!

「Tシャツ & スーベニアショップ ルー」さんより、WEBLUEの読者2名(男性1 女性1)にTシャツをプレゼント! ご希望の方はメールにてご応募ください。
※当選は商品の発送をもってかえさせていただきます。



発見!世界初! **カンムリブダイの大産卵!!**
Palau, Grassland
 Web-lue 2010. Winter